

A vibrant photograph of several large, pink camellia flowers in full bloom. The flowers have multiple layers of petals and bright yellow centers. They are set against a clear, bright blue sky. Some green leaves and unopened buds are also visible among the flowers.

No. 5

公益財団法人東洋哲学研究所

NEWSLETTER

目次

研究所紹介-----	2-3
第 33 回学術大会-----	4-5
共同シンポジウム「敦煌と法華経」-----	6
News-----	7
「法華経——平和と共生のメッセージ」展-----	8-9
韓国・釜山展-----	10-11
「仏教経典：世界の精神遺産」展 フランス・マルセイユ展-----	12
レクチャー／八王子学園都市大学いちよう塾-----	13
連続公開講演会「経済倫理と宗教」-----	14-15
法華経写本シリーズ-----	16
出版物-----	17-20

「IOP NEWSLETTER」No.5 では、公益財団法人東洋哲学研究所が 2018 年に推進してきた
「研究・調査」「国際学術交流」「研究成果公開」についてのトピックスを紹介します。

※所属、肩書、講演会タイトル等は当時のものです。

研究所紹介

創 立 者：池田 大作 創価学会インタナショナル会長

代表理事・所長：桐ヶ谷 章

【沿 革】

1962 年（昭和 37 年） 1 月 27 日 開所

1965 年（昭和 40 年）12 月 3 日 財団法人設立

2010 年（平成 22 年）11 月 18 日 公益財団法人認定

【設立趣旨】

東洋思想、なかんずく仏教のすぐれた思想・哲学を研究するとともに、各学問分野との学際的研究を推進。その成果をもって、人類が抱える諸課題の克服に貢献する。

【所 在 地】

〒192-0003 東京都八王子市丹木町 1-236

TEL：042-691-6591 / FAX：042-691-6588

開館：月曜日から金曜日（午前 10 時～午後 5 時）



東洋哲学研究所の創立は、1961 年（昭和 36 年）2 月 4 日に、インドのブッダガヤを訪問した創立者・池田 SGI 会長が、東洋の英知を探究・発信する学術機関の設立を構想したことにある。当研究所では、同日を 2・4「東洋哲学研究所の日」として、毎年、記念の集いを開催してきた。ここでは、同日に寄せて、東洋哲学研究所創立の意義について言及した、世界の学識者の声を紹介する。

ベッド・ナンダ博士（デンバー大学教授）



機関誌である『東洋学術研究』に、私は毎回、感銘を深くしています。異なる文化を代表する知識人や学者による対話と意見交換なくしては、「平和の文化」を築くことはできません。この平和の文化こそが、私たちが次世代に残したいと願う世界の前提条件です。

今後とも、貴研究所が、尊敬するリーダーの皆さんのもと、人類が直面する喫緊の課題の解決のため、世界中の知識人や学者、オピニオンメーカー（世論形成者）を結集し、啓発を与え、知恵を交わし合う崇高な事業を継続されることを念願しています。

研究所が発信する希望のメッセージが、これから長きにわたって、世界のさらに大勢の人々に届くことを確信してやみません。
（「聖教新聞」2016 年 2 月 7 日付より抜粋）



アクシニア・D・ジュロヴァ博士 （ブルガリア科学アカデミー会員・国立ソフィア大学教授）

今日、EU の経済的な課題解決の方途は開かれましたが、目指していた連帯の実現が困難となり、それぞれが生存するという現実的な選択を余儀なくされています。

こうした EU の地政学的な挑戦などの諸問題について、池田 SGI 会長は、今回の対談（2017 年発行「東洋学術研究」誌に収録された対談「大いなる人間復興への目覚め」）で論じるという新たなチャンスを私に与えてくださったのです。

SGI 会長のような責任ある人格と出会うという運命、またその方と世界の諸問題について分かち合うということがどれほどの幸運であるかを皆さま方は理解してください。そして対談を実現した貴研究所の方々との交流も、私にとっての幸運でありました。

（2018 年 2 月 4 日「東洋哲学研究所の日」に寄せたメッセージより抜粋）

第 33 回学術大会



第 33 回学術大会が 3 月 24、25 日に開催された（会場：24 日＝創価大学／25 日＝東洋哲学研究所）。

研究所の学術大会は、国内外の研究員・委嘱研究員が集い、法華経研究をはじめ、宗教間・文明間対話、平和と人権、環境問題などの課題克服の研究成果を発表する機会であり、それぞれの専門・研究分野を踏まえたテーマで発表を行っている。

第 33 回学術大会でのシンポジウムには、韓国宗教学会元会長で、西江大学教授の金在榮博士（写真）を招聘。博士は、宗教心理学の研究を進め、特にアメリカのジョン・デューイ及びその師であるウィリアム・ジェイムズに関する研究を行っている。シンポジウムの統一テーマは、「21 世紀と宗教——地球文明の構築へ向けて」。これは、東洋哲学研究所・創立者である池田 SGI 会長が 1993 年に米ハーバード大学で

行った講演「21 世紀文明と大乘仏教」に基づいたものである。講演で SGI 会長は、大乘仏教思想が 21 世紀文明に貢献する点として「平和創出の源泉」「人間復権の機軸」「万物共生の大地」の 3 つを提示し、21 世紀の人類が一人一人の「生命の宝塔」を輝かせ、「開かれた対話」を通して「人間と平和の世紀」を実現すべきであると語った。シンポジウムでは、21 世紀の地球文明構築への宗教、特に大乘仏教の可能性を改めて論じ、その実現のための学術的なアプローチを図った。

金在榮博士は「心理学的側面からアプローチする池田会長の宗教観」をテーマに、大要、次のような講演を行った。

「池田 SGI 会長の人物像について、私は様々な人や文献などを通して、イメージを確立してきました。そうした研究のなかで、会長への理解が変化していったのです。私が研究する心理学者

ウィリアム・ジェイムズと池田会長を比較すれば、人間の進化、人間の変容・変革、そして内面の変革、因果の関係について考えていかなければなりません。いかに、その内面の変容・変化から外的な変革に至るのかという、自己をどのように理解するのかということが最も基礎となるものです。池田 SGI 会長は、哲学的な専門用語を並び立てる方ではありません。あくまでもコミュニケーションの手段として用いられ、生身の人間が体験する宗教的な変革の過程を世界に発信しています。会長が編まれる対談集を読むと、一方的ではなく、対談する相手、読者、そしてすべての人たちが網羅される空間があると感じます。聞き手に対して排他的でなく、除外するのではなく、一緒に体験を積むことができるのです」

シンポジウムでは、東洋哲学研究所の柳沼正広研究員が「恩恵と自由意志－エラスムスとルターの自由意志論争」、蝶名林亮研究員が「倫理学者が仏教から『適切に』学ぶ方法」を発表し、質疑応答が行われた。

また、シンポジウムに先立つ午前 24 日と 25 日の午前に研究発表大会を開催した。



蝶名林亮研究員



柳沼正広研究員

研究発表大会 第 1 日目 (3 月 24 日)

- 井筒哲学における言語アラヤ識の意味論的構造 (山崎達也研究員)
- The Migration Emergency in Europe: Intercultural Dialogue to promote mutual understanding (フランチェスカ・コッラオ海外研究員)
- Dealing with Heterogeneity in the School Class (バーバラ・ドリンク海外研究員)
- 新・池田 & ジュロヴァ文明間対話『大いなる人間復興への目覚め』に学ぶ (二宮由美研究員)

研究発表大会 第 2 日目 (3 月 25 日)

- 人はなぜ戦うのか－戦争の一般的原因の諸段階－ (岩木秀樹委嘱研究員)
- 智顗著作における引用文献の考察 (前川健一研究員)
- 自殺現象に関する考察－個別的心理からの視点－ (山口力委嘱研究員)
- 『人生地理学』出版前夜 (上藤和之委嘱研究員)
- A・J・トインビー『歴史の研究』の視点から見た中国史に関する一考察－『歴史の研究』再考察篇・『図説 歴史の研究』を中心として (満田剛委嘱研究員)
- 2017 年獅城国際戯曲学術検討会に参加して。報告と考察 (藤岡道子委嘱研究員)

中国・敦煌研究院と共同シンポジウム 「敦煌と法華経」

中国・敦煌研究院と東洋哲学研究所の共同シンポジウム「敦煌と法華経」が、甘肅省敦煌市の同研究院で開催された。シンポジウムには、両機関の代表とともに敦煌学の研究者ら約 50 人が参加した。

シンポジウムにあたって池田 SGI 会長はメッセージを送り、法華経に説かれる「如我等無異」の一節を通して、「仏の目的は、衆生を自分と等しい永遠性の幸福の境地に導くことにある。即ち人類の精神性と境涯を限りなく高め、平和な世界を創造していくことにあります。まさに法華経が『諸経の王』である証しであります」と強調。法華経が「生命尊厳の極理」「万物共生の光源」「平和創出へ世界市民の行動と連帯を示す指標」であることを示し、「この法華経にこそ、21 世紀文明を照らしゆく英知の光があります。そして私は、シルクロード文化の集積地として、多様な民族や人種が交流した敦煌が、今まで以上に世界の民衆に“美の光彩”を放ち、生命の活力を贈りゆかけがえのない“精神のオアシス”として、人々に平和と共生と人道のメッセージを発信し続けていくことを強く確信してやみません」と願った。

東洋哲学研究所の川田洋一顧問は、敦煌研究院の歴代院長と SGI 会長との友誼の歴史に触れ、敦煌芸術の底流にある信仰の力について語った。同研究所研究事業部の蔦木栄一副部長は「世界に広がる法華経展」をテーマに、「法華経——平和と共生のメッセージ」展について紹介した。両機関からは次の論考が発表された。

- 「莫高窟第 285 窟を『法華経』の角度から解説する」（敦煌研究院・張元林研究員）
- 「中国天台における『観音経』（『法華経』観世音菩薩普門品）の注釈について」（東洋哲学研究所・菅野博史副所長）



- 「敦煌に居留した于闐人の法華信仰」（敦煌研究院・張小剛研究員）
- 「敦煌の二仏並坐の淵源について一失われた街を訪ねて」（東洋哲学研究所・山田勝久委嘱研究員）
- 「吐蕃統治期の敦煌における法華信仰」（敦煌研究院・趙曉星研究員）
- 「敦煌写本『法花行儀』と唐代法華思想」（東洋哲学研究所・松森秀幸研究員）

最後に、敦煌研究院の趙声良副院長が「シンポジウムを通じ、新たな法華経研究が進んだと思います。今後もさらに交流を進めたい」と述べた。

- ◆主催：敦煌研究院、東洋哲学研究所
- ◆会場：敦煌研究院（中国・甘肅省敦煌市）
- ◆開催日：2018 年 9 月 5 日

中国・敦煌研究院と東洋哲学研究所との学術交流協定調印式が9月4日、中国・甘肅省敦煌市の同研究院で行われた。これには、同研究院の王旭東院長、東洋哲学研究所の川田洋一顧問らが出席した。

協定では、これまで取り組んできた「法華経——平和と共生のメッセージ」展の開催に伴う協力に加えて、学術活動の共同実施や相互交流のさら



なる促進を盛り込んでいる。

調印式で王旭東院長は「東洋哲学研究所は非常に重要な学術組織で、これまで法華経展やシンポジウムを実施してきました。2017年10月にはシンガポールでの法華経展を通し、私たちとの協力関係が深まりました。これから力を合わせて、今まで以上に発展をしていきたい」と語った。



ロシア科学アカデミー 東洋古文書研究所を表敬訪問



ロシア科学アカデミー東洋古文書研究所の創立200周年記念行事が11月27日から29日まで、ロシア・サンクトペテルブルクの同研究所で開催された。これには、東洋哲学研究所の桐ヶ谷章所長らが参加した。

同研究所は、東洋哲学研究所と長年にわたって

交流を続け、「法華経とシルクロード展」では、「ペトロフスキー本」を含むオリジナルの文物47点を出版。「法華経——平和と共生のメッセージ」展には、後援機関として資料提供などを行い、両機関は学術交流協定を締結している。

27日の記念行事では、プーチン大統領、ロシア科学アカデミーのアレクサンドル・セルゲーエフ総裁らがメッセージを寄せ、東洋古文書研究所のイリーナ・ポポワ所長が挨拶した。28日の全体会では、桐ヶ谷所長が池田SGI会長のメッセージを紹介した。29日には分科会において、当研究所の川崎建三委嘱研究員が東洋哲学研究所の理念・活動を紹介し、両機関による法華経展や「法華経写本シリーズ」の発刊について述べた。

「法華経——平和と共

「法華経——平和と共生のメッセージ」展は、東洋哲学研究所が企画・制作する展示会で、2006年からスタートした。同展は、研究所が進める法華経研究の成果を広く公開するとともに、法華経の伝播の歴史と経典の内容を分かり易く紹介するものである。研究所では池田SGI会長の指針のもと、「法華経とシルクロード」展（1998年～2000年）、「法華経——世界の精神遺産」展（2003年～04年）、「法華経——平和と共生のメッセージ」展（2006年～現在）を開催。その間、「仏教経典：世界の精神遺産——写本と図像で知る法華経」展（2016年～現在）等も行ってきた。

法華経展の淵源となった1998年開催の「法華経とシルクロード」展では、ロシア科学アカデミー東洋古文書研究所が所蔵する約10万点に及ぶコレクションの中から、オリジナルの仏典写本、木版本など14言語47点が日本初の公開となった。そして、同展を発展・拡充したのが「法華経——平和と共生のメッセージ」展である。ロシア科学アカデミー東洋古文書研究所、中国・敦煌研究院、インド文化国際アカデミーの全面的な協力により、法華経写本の画像および複製の公開や敦煌莫高窟の再現、仏教文物・各種資料の提供なども行われている。その出品物には、8世紀書写とされるペトロフスキー法華経写本や1～2世紀書写のガンダーラ語の法句経の複製などが含まれる。また、敦煌莫高窟の壁画に描かれた飛天の模写絵や、敦煌文書の法華経（複製）をはじめ、経典書写の際に使用された鉄筆や白樺の樹皮の複製品など、展示全体で約160点に及ぶ文物が展覧されている。また研究所では、同展を解説した『ガイドブック法華経展——平和と共生のメッセージ』を編纂し、日本語、英語、韓国語、中国語（簡体字・繁体字）の4言語で刊行している。

展示会のコンセプトは「目で見える法華経」であり、日本だけでなく、仏教発祥の地であるインド、ネパールやイスラム文化圏のマレーシア、上座部仏教国のタイなどアジア各地をはじめ、ヨーロッパ、南米で開催。世界16カ国・地域で80万人以上が鑑賞する展示会となっている。これまで、韓国の李壽成元首相、タイのウィーラ・ロートポッチャナラット文化大臣、香港中文大学終身主任教授の饒宗頤博士、翻訳家のバートン・ワトソン氏など各界を代表する来賓も展示会に訪れている。

「法華経の多様な写本を拝見しました。これらは、仏教精神への理解を深め、『法華経』のメッセージを世界に広げていく為のこのうえない資料です」（アルゼンチンサルバドル大学東洋学学院カルロス・マヌエル・ルア院長）、「仏教の普遍的価値を浮き彫りにし、人類の精神的遺産の一部とする歴史的な展示会です」（インド国立公文書館ムシルル・ハサン館長）等の声が寄せられている。

生のメッセージ」展

「法華経——平和と共生のメッセージ」展 開催国・地域

1	香港	2006 年～2007 年、2015 年
2	マカオ	2007 年
3	インド	2007 年、2008 年、2009 年、2010 年
4	スペイン	2009 年、2012 年
5	ネパール	2010 年
6	ブラジル	2010 年、2011 年
7	スリランカ	2011 年、2013 年
8	イギリス	2011 年
9	日本	2012 年、2013 年、2014 年
10	台湾	2013 年、2015 年
11	マレーシア	2014 年
12	アルゼンチン	2014 年
13	韓国	2016 年、2018 年
14	ペルー	2016 年
15	タイ	2017 年
16	シンガポール	2017 年



スペイン・マドリッド展（2009 年）



シンガポール展（2017 年）



神戸展（2012 年）



タイ展（2017 年）



ブラジル・サンパウロ展（2011 年）



マレーシア・クアラルンプール展（2014 年）



台湾・桃園展（2015 年）

韓国・釜山での「法華経——平和と共生のメッセージ」展の開幕式が8月24日、釜山広域市・水宮旭日文化会館で行われた。

ソウル展に続き、韓国2都市目の開催となった釜山展は、東洋哲学研究所と韓国・中央日報プラス、韓国SGIが共催。インド文化国際アカデミー、中国・敦煌研究院、ロシア科学アカデミー東洋古文書研究所の海外機関のほか、韓国国内から文化体育観光部、釜山広域市、駐韓インド大使館、韓国芸術文化団体総連合会、韓国記者協会、国際ペンクラブ韓国本部が後援となった。展示数は約170点。ソウル展同様、国内の博物館の特別協力により、国宝1点（白紙墨書妙法蓮華経。湖林博物館所蔵）と日本の重要文化財に相当する宝物2点（紺紙銀泥妙法蓮華経、妙法蓮華経巻5-7。国立中央博物館所蔵）の複製を展示。さらに、シンガポール展で初公開となった敦煌研究院より寄贈された「二仏並座」の模写絵をはじめ、莫高窟85窟の再現が行われるなど時空を超え、「目で見る法華経」を実現した展示会となった。

開幕式には、中央日報の宋弼鎬副会長をはじめ、韓国・東亜大学の韓錫政総長、韓国芸術文化団体総連合会の河喆鏡会長、国際ペンクラブ韓国本部の孫海鎰理事長などの来賓、韓国SGIの代表メンバーなど100人が出席。盛大にテープカットが行われた。展示会には会期中、4万8千人を超える鑑賞者が訪れ、大きな反響を呼んだ。

来賓からは、以下のような声が寄せられた。

「文化交流を通じた民衆の連帯を上げてきた東洋哲学研究所創立者・池田SGI会長の哲学と行動に深く共感します。法華経は、人類が学び、実践しなければならない精神の遺産です」（中央日報・宋弼鎬副会長）

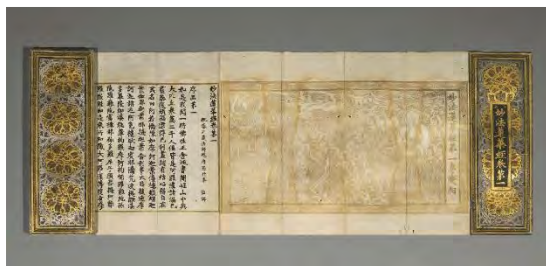
「韓日友好を広げてきた池田SGI会長、そして釜山での法華経展開催の為に尽力された関係者の皆様に心から感謝申し上げます」（東亜大学・韓錫政総長）



韓国・釜山



「法華経——平和と共生のメッセージ」展



- ◆企画・制作：東洋哲学研究所
- ◆主催：東洋哲学研究所、韓国 SGI、中央日報プラス
- ◆後援：ロシア科学アカデミー東洋古文書研究所、敦煌研究院、インド文化国際アカデミー、文化体育観光部、釜山広域市、駐韓インド大使館、韓国芸術文化団体総連合会、韓国記者協会、国際ペンクラブ韓国本部
- ◆会場：韓国 SGI・水宮旭日文化会館（釜山）
- ◆開催日： 2018 年 8 月 24 日～10 月 14 日



「仏教経典：世界の精神遺産」展

フランスで3都市目となる「仏教経典：世界の精神遺産」展が10月6日、マルセイユ市のドック・ヴィラージュで開幕した。同展は「法華経——平和と共生のメッセージ」展の内容を、さらに仏教全体に広げたもので、フランス・仏教学研究所の協力によってパネル制作も行われた。開催都市となったマルセイユは、フランス第2の都市で、同国最大の港湾都市。会場となったドック・ヴィラージュは、市内観光の中心地近くに商業・文化施設として新装された建物で、その基となるのは1863年に完成した同市の歴史的建造物である。

展示会は、東洋哲学研究所、フランス創価文化協会が主催し、敦煌研究院、ロシア科学アカデミー東洋古文書研究所、インド文化国際アカデミーが後援。仏教学研究所が協力している。展示では、法華経写本シリーズや法華経等の写本（複製）、鉄筆や白樺の樹皮などの文物30点を公開するとともに、敦煌莫高窟85窟の再現や、仏教伝播の歴史を豊富なパネルで紹介している。

開幕式典には130人が出席。創価文化協会のジャン＝クロード・ゴベル会長の挨拶並びに来賓紹介に続き、マルセイユ・チベット仏教センターのアンリ・シゴ代表は「この展示は、仏教伝播の歴史を余すところなく伝えた素晴らしい内容です。また、各地域でどのように仏教が発展したか、特にアフガニスタンのガンダーラ地域での仏教発展が説明され、とても良くできた展示だと思います」と祝辞を。仏教学研究所のドミニク・トロティニオン所長は、「これまでフランスで仏教をテーマに開催されてきた展示会はありませんでしたが、それは主に仏教美術の面を扱うものであり、いくつかの国やある時代をテーマにしたものに限られていました。しかし、この仏教経典展は仏教全般をその起源から詳細に説明する展示なのです」と語った。

- ◆企画・制作：東洋哲学研究所
- ◆主催：東洋哲学研究所、フランス創価文化協会
- ◆後援：中国・敦煌研究院、ロシア科学アカデミー東洋古文書研究所
インド文化国際アカデミー
- ◆協力：仏教学研究所
- ◆会場：ドック・ヴィラージュ（マルセイユ）
- ◆開催日：2018年10月6日～15日



レクチャー／いちょう塾

東洋哲学研究所では、国内外の有識者を招聘してレクチャーを開催し、研究活動の促進を図っている。

また、市民大学である八王子学園都市大学いちょう塾に当研究所の研究員による講座を提供している。

「社会と宗教」レクチャー

9月18日

「共同体と美德（ハワーズと平和物語）」

東方敬信（青山学院大学名誉教授）

八王子学園都市大学 いちょう塾 一般公開講座

4月28日

「鎌倉時代の暮らしのトラブル ～人の本質は今も昔も変わらない？～」

梶川貴子（東洋哲学研究所委嘱研究員）

6月2日

「夏目漱石の個人主義論 ～日本と日本人はどこへ向かうのか～」

石神豊（東洋哲学研究所主任研究員）

6月30日

「健康長寿で豊かな人生を！ ～いきいきヘルスケアの秘訣～」

稲光禮子（東洋哲学研究所委嘱研究員）

7月7日

「シルクロードに悠久の夢とロマンを馳せて ～砂漠の大画廊、敦煌・莫高窟の光彩～」

山田勝久（東洋哲学研究所委嘱研究員）

連続公開講演会 統一テーマ 「経済倫理と宗教」

2018 年度の連続公開講演会は、現代世界を覆う紛争・戦争をはじめ、環境問題、移民問題などの多くの問題群の原因のなかに、経済的格差・不平等や貧困があることを念頭に、統一テーマを「経済倫理と宗教」とした。全 4 回の講演会は、これまでの研究実績を活かしつつ、仏教、キリスト教、イスラーム、儒教の視座から宗教がいかなる経済倫理によって応答し、克服していくべきかを提示する機会となった。

- ◆講 師：東方 敬信（青山学院大学名誉教授）
- ◆開催日：2018 年 10 月 16 日
- ◆会 場：TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター（東京・新宿区）
- ◆テ ー マ：スチュワードシップの神学
——創り主に託された経済のあり方



講演では、アマルティア・センが、経済学の前提となっている功利主義哲学を批判し、「正義」「信頼」「共感」「献身」の必要性を訴えたことに触れ、「私は、アマルティア・センを通して仏教との対話を試みたい。彼が言った信頼は、互いに交流を深め合うという意味で『菩薩道』に通じると思います。共感は、自己の幸福追求と他者の幸福追求のバランスをもたらすものですから、『自他同置』です。キリスト教の隣人愛の精神と通じるものです。そして献身は、不正義に対する犠牲をも厭わないことから『布施』であると考えます。信仰によって、自らの生き方がどのように変わったのか。生活の価値判断がどう動いたのか。この献身が仏教の布施の精神と通じると思います」と語った。

- ◆講 師：小田 淑子（宗教倫理学会元会長、
関西大学元教授）
- ◆開催日：2018 年 11 月 1 日
- ◆会 場：梅田スカイビル（大阪市・北区）
- ◆テ ー マ：イスラームにおける経済倫理



小田氏は、古来より宗教と経済が密接な関係にあることに触れ、イスラーム世界では六信五行に見られるように、信じる対象と行いが日本の宗教文化と異なり明確であると語り、「イスラームは在家の宗教であって、出家する必要がありません。社会の中で生きるための宗教であり、信仰者としての生き方なのです。その共同体は信仰を基としたもので、社会から離れない生活共同体です。精神と身体を分かち合えないように、イスラーム共同体の中では、宗教も政治も経済も線を引く事ができないのです」と論じた。また、こうしたイスラームの現状を認識したうえで、イスラームに限らず、宗教の価値観や伝統、生活様式を相互に理解し合っていく必要性を訴えた。

10月から12月にかけて実施された「経済倫理と宗教」には、累計1000人を超える聴講者が、首都圏・関西圏をはじめ全国各地から訪れ、識者による考察に耳を傾けた。参加者からは、「難しい内容かと思いましたが、分かりやすい講演でとても勉強になりました」「知らない、興味を持たない自分から、講演を通して一步を踏み出すことができました」などの声が寄せられている。

- ◆講師：金山 権（桜美林大学大学院教授）
- ◆開催日：2018年11月22日
- ◆会場：TKP市ヶ谷カンファレンスセンター（東京・新宿区）
- ◆テーマ：中国における儒教の経済倫理



金山氏は講演で、中国における儒教の基本的な概念を紹介。

「儒教は、楽観的な人間至上主義であり、中国で社会に多大な影響を与えた宗教です。儒教は、孔子とその弟子達が創成した宗教（思考、信仰）、哲学で、人として五常を守り、五倫との関係を維持していきましょうという教えの事です。学問としては儒学、哲学としては儒家思想とも言い、道教とともに中国の宗教と言えます」と述べた。さらに、「中国の儒教を中心とする伝統倫理も時代の変化に適応しなければならぬし、グローバル化への対応の中で、現代企業倫理を築くことが企業統治構築の前提ともいえる重要な試みです」と語った。そして、中国が発展している世界の先頭に立って伝統倫理の揚棄に積極的に取り組もうとする姿勢を示唆していることは望ましいが、その行方を興味深く見守っていきたいと望んだ。

- ◆講師：高木 功（創価大学教授）
- ◆開催日：2018年12月6日
- ◆会場：日本青年館ホテル（東京・新宿区）
- ◆テーマ：経済倫理と仏教：グローバル経済の変革における「菩薩」という人間像の意義



講演では、「グローバル化の本質は西洋の考えや方法を途上国に浸透させ、途上国が受け入れることで経済発展していくというものです。そうした流れのなかで、経済の舞台は国内から世界になり、貧富の格差はかつてないほど大きく広がっています」と強調。また今、生命に具わる根源的な無知であり、自己並びに他者の善性への不信という仏教が説く「元品の無明」によって世界が覆われていると述べ、それを打ち破る生き方としての『菩薩像』を提示した。すべての存在を縁起とみる菩薩にとって、自身の幸福と他の幸福は相互に依存関係にあり、あらゆる人々の善性すなわち仏性の存在を信じることで、自己と他者の尊厳性の普遍的基礎を提供すると論じた。



「法華經写本シリーズ」



東洋哲学研究所と創価学会は、法華經写本を所蔵する世界の研究機関および研究者の協力を得て、「法華經写本シリーズ」の刊行を推進してきた。これは、各国に保存されてきた貴重な法華經写本を鮮明なカラー写真で撮影した「写真版」と、写本の“読み”をローマ字化した「ローマ字版」を公刊し、世界の研究者に広く提供して『法華經』を中心とした初期大乘仏教の研究に貢献するためのものである。

1994 年に出版委員会を発足させ、1997 年から 2018 年にかけて全 16 タイトル 18 点を発刊してきた。また、当シリーズ発刊の契機の一つとして、東洋哲学学研究所創立者・池田 SGI 会長に対して、世界の研究機関等から貴重な「法華經写本」の複製やマイクロフィルム等が寄せられてきたことがあげられる。

梵文法華經の校訂本としては「ケルン・南條本」（1908～1912 年）、「荻原・土田本」（1934～1935 年）、「ダット本」（1953 年）等の先駆的業績があったが今日の学問的水準から見ると、より正確で信頼に足る校訂本が望まれている。当シリーズは、そのための基礎資料を提供するものである。

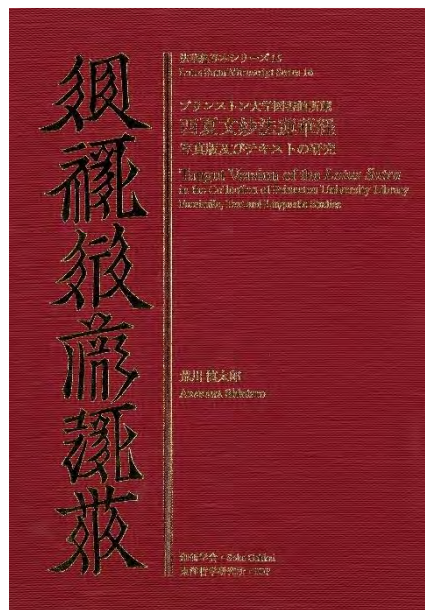
「法華經写本シリーズ」一覧

- 1 旅順博物館所蔵 梵文法華經断簡 — 写真版及びローマ字版
- 2-1 ネパール国立公文書館所蔵 梵文法華經写本 (No. 4-21) — 写真版
- 2-2 ネパール国立公文書館所蔵 梵文法華經写本 (No. 4-21) — ローマ字版 1
- 2-3 ネパール国立公文書館所蔵 梵文法華經写本 (No. 4-21) — ローマ字版 2
- 3 カダリク出土 梵文法華經写本断簡
- 4 ケンブリッジ大学図書館所蔵 梵文法華經写本 (Add. 1682 および 1683) — 写真版
- 5 東京大学総合図書館所蔵 梵文法華經写本 (No. 414) — ローマ字版
- 6 ロシア科学アカデミー東洋学研究所サントペテルブルク支部所蔵 西夏文「妙法蓮華經」— 写真版（鳩摩羅什訳対照）
- 7 英国・アイルランド王立アジア協会所蔵 梵文法華經写本 (No. 6) — ローマ字版
- 8 パリ・アジア協会所蔵 梵文法華經写本 (No. 2) — ローマ字版
- 9 大英図書館所蔵 梵文法華經写本 (Or. 2204) — 写真版
- 10 ケンブリッジ大学図書館所蔵 梵文法華經写本 (Add. 1684) — ローマ字版
- 11 大英図書館所蔵 梵文法華經写本 (Or. 2204) — ローマ字版
- 12 インド国立公文書館所蔵 ギルギット法華經写本 — 写真版
- 13 ロシア科学アカデミー東洋古文書研究所所蔵 梵文法華經写本 (SI P/5 他) — 写真版
- 14 コルカタ・アジア協会所蔵 梵文法華經写本 (No. 4079) — ローマ字版
- 15 ネパール国立公文書館所蔵 梵文法華經写本 (No. 5-144) — ローマ字版
- 16 プリンストン大学図書館所蔵 西夏文妙法蓮華經 — 写真版及びテキストの研究

出版物

『プリンストン大学図書館所蔵西夏文妙法蓮華經

——写真版及びテキストの研究』（非売品）

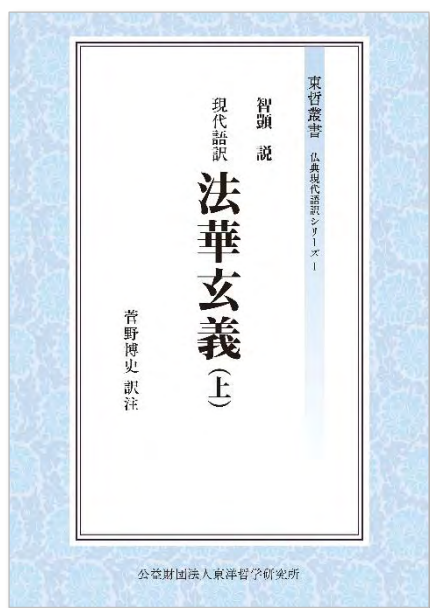


「法華經写本シリーズ」16 となる『プリンストン大学図書館所蔵西夏文妙法蓮華經——写真版及びテキストの研究』は、アメリカ・プリンストン大学図書館に所蔵される西夏文「妙法蓮華經」に関する世界初の研究書である。

西夏は 11～13 世紀、中国西北部の要衝に覇を唱えた国家である。西夏文字も西夏語も使用者は絶えたものの、同地で興隆した仏教文化は、大量の仏教文献の形で現在に残る。1990 年代以降、ロシア所蔵コレクションが公開されたこと、特に 2000 年代以降、中国内の研究が飛躍的に進んだことから、西夏学は大きく変貌しつつある。

東洋哲学研究所では 2005 年に『ロシア科学アカデミー東洋学研究所サンクトペテルブルク支部所蔵西夏文妙法蓮華經写真版（鳩摩羅什訳対照）』を刊行。これに続く本書は、ロシア所蔵本には現存しない完全な「巻四」のテキスト部分及び西夏文を伴う仏図を収録し、東京外国語大学の荒川慎太郎准教授による詳細な研究を加えている。今回の刊行によって、西夏文妙法蓮華經の研究の一層の推進が望まれている。

東哲叢書『現代語訳 法華玄義（上）』 定価：6,000 円＋税



東洋哲学研究所の叢書「東哲叢書」の「仏典現代語訳シリーズ」I として『現代語訳 法華玄義（上）』が完成した。

『法華玄義』（『妙法蓮華經玄義』）全 10 巻は、天台大師智顗の講説を、弟子の章安大師灌頂が整理して書物とし、師匠の偉業を後世に伝えたものである。天台三大部（『法華玄義』『法華文句』『摩訶止観』）の一つとして、『法華經』の注釈書のなかで古来もっとも多く読み継がれてきたものである。これらの仏教文献は『大正新修大蔵經』等に収録されており、原典は漢文である。そのため現代語訳し、その思想の全貌を蘇らせることは仏教研究者のみならず、『法華經』に関心を持つ読者に待望されていた。本書は、「東哲叢書」の第 1 冊目として菅野博史副所長が訳注を行い、『法華玄義』を現代語訳したものである。

今後は、この「仏典現代語訳シリーズ」にとどまらず、東洋哲学研究所の学術研究成果を専門性と一般性を兼ね備えた「東哲叢書」として刊行していく予定である。

東洋学術研究 第57巻 第1号（通巻180号） 定価：1,238 円＋税



■180号の特集は「生命倫理と宗教」。尊厳死や安楽死、人工中絶の問題から、ES細胞・iPS細胞による再生医療まで、現代医療の技術発展に伴い、臨床の現場は新たな局面を迎えている。こうした状況のなかで、宗教には人間の生死をめぐる諸問題に対して応答する使命があると考え、東洋哲学研究所では、仏教、キリスト教、儒教、イスラームの各宗教の視座から2017年度連続公開講演会「生命倫理と宗教」を開催した。特集では、この講演会とともに、「社会と宗教」レクチャーでの発表内容を掲載する。

■韓国・李壽成元首相による特別講演会（2017年10月8日、コングレススクエア中野）を収録。また東洋哲学研究所の企画・制作による「法華経——平和と共生のメッセージ」展より、世界各地を巡回する展示の紹介と、シンガポール法華経展（2017年10月1日～25日／11月1日～18日、アートハウス／シンガポール創価学会本部）の開幕式及び会期中に行われた講演会の内容を収録する。

主な内容

- 特集「生命倫理と宗教」（連続公開講演会、レクチャーより）
 - イスラームにおける生命倫理の諸問題……………青柳かおる（新潟大学准教授）
 - 科学の進歩と生命をめぐる倫理的課題の過去・現在・未来——キリスト教における議論を参考にしながら——
 - ……………小原克博（同志社大学教授、同大学良心学研究センター長）
 - 仏教と生命倫理……………山本典生（東洋哲学研究所委嘱研究員、順天堂大学大学院准教授）
 - 中国文化における生命倫理
 - ……………池澤 優（東京大学大学院人文社会系研究科教授、同大学死生学・応用倫理センター長）
 - イランにおける第三者がかかわる生殖補助技術の活用に関する倫理的議論と実践
 - ……………細谷幸子（国際医療福祉大学准教授）
 - キリスト教と生命倫理……………土井健司（関西学院大学教授）
- 韓国元首相特別講演会より
 - 東アジアの平和の連帯を目指して……………李壽成（韓国元首相、ソウル大学元総長）
- 「法華経——平和と共生のメッセージ」展より
 - 世界に広がる法華経展
 - 永遠のこだま——敦煌壁画の『法華経』図像とその現代における啓示——
 - ……………張元林（敦煌研究院シルクロードと敦煌研究センター長・研究員）
 - 法華経の流伝——インドから東アジアへ……………ニルマラ・シャルマ（インド文化国際アカデミー教授）
 - 一なる真実在、いくつもの信条……………モハンマド・アラミ・ムサ（シンガポール・イスラーム宗教評議会議長）
- イスラーム・レクチャーより
 - アヴィセンナの存在論と西洋中世……………山内志朗（慶應義塾大学教授）

東洋学術研究 第57巻 第2号 (通巻181号) 定価：1,238 円+税



■181号では、「世界人権宣言」採択70周年を記念するてい談を収録。「人権・公共哲学・宗教を語る」をテーマに、東京大学名誉教授で星槎大学の山脇直司副学長と東洋哲学研究所の桐ヶ谷卓所長、石神豊主任研究員が語り合う。

■特集1では、第33回学術大会でのシンポジウム「21世紀と宗教——地球文明の構築へ向けて」（2018年3月24日、創価大学）から、韓国・西江大学の金在榮教授による「宗教心理学者としての池田大作：その素描」をはじめ、東洋哲学研究所研究員の論考を掲載する。

■特集2では、「法華経——平和と共生のメッセージ」展の後援機関であり、東洋哲学研究所と学術交流協定を締結しているロシア科学アカデミー東洋古文書研究所の創立200周年を記念する特別寄稿を収録する。

主な内容

■「世界人権宣言」採択70周年記念てい談

「人権・公共哲学・宗教を語る」……………山脇直司（東京大学名誉教授、星槎大学副学長）、桐ヶ谷卓（東洋哲学研究所所長）、石神豊（東洋哲学研究所主任研究員）

■21世紀と宗教——地球文明の構築へ向けて（第33回学術大会シンポジウムより）

宗教心理学者としての池田大作：その素描……………金在榮（韓国・西江大学教授）
恩恵と自由意志 エラスムスとルターの自由意志論争……………柳沼正広（東洋哲学研究所研究員）
倫理学者が仏教から「適切に」学ぶ方法……………蝶名林亮（東洋哲学研究所研究員）

■ロシア科学アカデミー東洋古文書研究所創立200周年記念特別寄稿

アジア博物館から東洋古文書研究所へ——東洋民族の写本収集家と研究者——
……………イリーナ・F・ポポワ（東洋古文書研究所所長）
法華経研究への道……………マルガリータ・I・ヴォロビヨヴァ＝デシャツスカヤ（東洋古文書研究所顧問）
広宣流布の基本理念に見る仏教のヴィヤーカラナ……………サファリ・Kh・シヨマフマドーフ（東洋古文書研究所研究員）
仏教学者 O・O・ローゼンベルグの個人蔵書……………カリーネ・G・マランジャン（東洋古文書研究所研究員）

■対談「大いなる人間復興への目覚め」記念寄稿

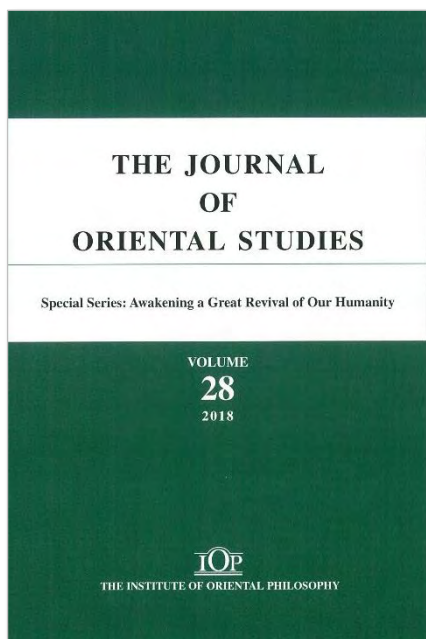
対話——より人間的な未来への鍵……………ヴァンヤ・ヴェリノヴァ（スラヴ・ビザンチン研究所所長）
東方正教会における人間観……………二宮由美（東洋哲学研究所研究員）
石彫の平和学……………浅賀正治（彫刻家）

■寄稿

21世紀の課題としての「異文化間教育」……………バーバラ・ドリンク（東洋哲学研究所海外研究員）
インド大乘仏教経典に見られる刑罰・戦争論——十善はどのように王政として展開されるのか——
……………杉木恒彦（広島大学准教授）

出版物

The Journal of Oriental Studies vol. 28 定価：2,000 円+税



Main Articles

Special Series:

Dialogue: Awakening a Great Revival of Our Humanity (2)

..... Axinia D. Djourova / Daisaku Ikeda

Commemorative Contributions

Dialogue as Key to a More Humane Future..... Vassja Velivova

The Eastern Orthodox Church's Positive Outlook on Human..... Yumi Ninomiya

Peace Studies through Stone Sculpture..... Masaji Asaga

Feature: Religion and Global Civilization in the 21st Century

From the Symposium in Conjunction with 33rd Annual Conference

A Sketch on Daisaku Ikeda as a Psychologist of Religion..... Chae Young Kim

Grace and Free Will: Luther and Erasmus's Debate on the Freedom of the Will

..... Masahiro Yaginuma

How (Properly) Can Moral Philosophers Learn from Buddhism? —Some Problems—

..... Ryo Chonabayashi

From the Exhibition 'The Lotus Sutra—A Message of Peace and Harmonious Coexistence'

Showcasing the Lotus Sutra and Its Artefacts Worldwide

An Echo from the Ancient Past: Depictions of the Lotus Sutra in Dunhuang Murals

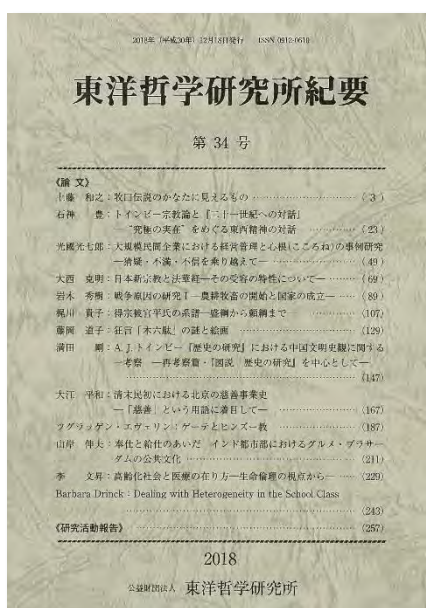
and Their Message for the Contemporary World..... Zhang Yuanlin

Dissemination of the Lotus Sutra from India to East Asia..... Nirmala Sharma

One Reality, Many Beliefs..... Mohammad Alami Musa

The Lotus Sutra Is as Deep as the Sea in Us..... Lokesh Chandra

東洋哲学研究所紀要 第 34 号 (非売品)



《論文》

■ 牧口伝説のなかなに見えるもの..... 上藤和之 (委嘱研究員)

■ トインビー宗教論と『二十一世紀への対話』—“究極の实在”をめぐる東西精神の対話—

..... 石神豊 (主任研究員)

■ 大規模民間企業における経営管理と心根 (こころね) の事例研究

—猜疑・不満・不信を乗り越えて— 光國光七郎 (委嘱研究員)

■ 日本新宗教と法華経—その受容の特性について— 大西克明 (研究員)

■ 戦争原因の研究 I—農耕牧畜の開始と国家の成立— 岩木秀樹 (委嘱研究員)

■ 得宗被官平氏の系譜—盛綱から頼綱まで— 梶川貴子 (委嘱研究員)

■ 狂言「木六駄」の謎と絵画 藤岡道子 (委嘱研究員)

■ A. J. トインビー『歴史の研究』における中国文明史観に関する一考察

—再考察篇・『図説 歴史の研究』を中心として— 満田剛 (委嘱研究員)

■ 清末民初における北京の慈善事業史—「慈善」という用語に着目して—

..... 大江平和 (委嘱研究員)

■ ゲーテとヒンズー教 ツグラッゲン・エヴェリン (委嘱研究員)

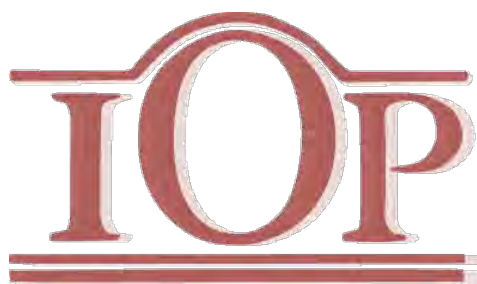
■ 奉仕と給仕のあいだ インド都市部におけるグルメ・プラサーダムの公共文化

..... 山岸伸夫 (委嘱研究員)

■ 高齢化社会と医療の在り方—生命倫理の視点から— 李文昇 (委嘱研究員)

■ Dealing with Heterogeneity in the School Class Barbara Drinck (海外研究員)

《研究活動報告》



公益財団法人東洋哲学研究所

〒192-0003 東京都八王子市丹木町 1-236

Tel: 042 (691) 6591 Fax: 042 (691) 6588

メールアドレス: iop_info@iop.or.jp

日本語サイト: <http://www.totetu.org/>

英語サイト: <http://www.iop.or.jp/>



公益財団法人東洋哲学研究所

THE INSTITUTE OF ORIENTAL PHILOSOPHY